

静岡県公立大学法人

令和5事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

(案)

令和6年8月

静岡県公立大学法人評価委員会

第1 静岡県公立大学法人の令和5事業年度における業務実績評価

静岡県公立大学法人評価委員会は、「静岡県が設立する公立大学法人に係る評価基本方針」（平成19年12月5日制定）に基づき、令和5事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

1 評価に当たっての基本的な考え方

- (1) 評価を通じて、大学の教育研究及び法人運営の進捗状況等を分かりやすく示し、県民への説明責任を果たしていくものとする。
- (2) 法人の教育研究並びに組織及び運営についての様々な工夫や特色ある取組を積極的に評価するものとする。
- (3) 次期の中期目標・中期計画、法人の組織及び業務運営の見直しの検討に資するものとする。

2 評価方法

- (1) 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行った。
- (2) 「全体評価」は、(3)の項目別評価を踏まえるとともに、当該年度の重点的な取組や法人の特性等に配慮しつつ、中期目標・中期計画の全体的な進捗状況を総合的に判断した。
- (3) 「項目別評価」は、法人による自己点検・評価の結果を基に、当該年度計画に定めた項目ごと、年度計画設定の妥当性も含めて総合的に検証を行い、中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況を確認した上で、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の4つの目標別に総合的に検証した。

第2 全体評価

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

静岡県公立大学法人（以下「法人」という。）の令和5事業年度の業務実績に関しては、全体として「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、静岡県立大学及び同短期大学部が、社会の発展に寄与する「**知の拠点**」として、年齢層や国籍を問わず、多様な人材が集まる大学づくりを推進するとともに、地域に立脚した大学であるという認識を深め、積極的に地域貢献に取り組むほか、地域への理解とグローバルな視野を兼ね備えた、グローバル化社会で活躍できる人材育成に努めるなど、本県のみならず、国内外から支持される魅力的な大学となることを目指して計画を策定し、遂行している。

第3期中期目標期間の5年目である令和5事業年度は、中期計画及び年度計画に基づく数々の目標の達成に向けた取組を着実に進めた1年となった。

法人の中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況について、「第3項目別評価」のとおり、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の全ての項目について、「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と認められる。

これらの状況と令和5事業年度の重点的な取組や法人の特性等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価が相当と判断した。

(3) 令和5事業年度の重点的な取組

ア 研究活動の推進及び成果の活用

薬学分野において、疾病の病因・治療・予防に関する研究及び創薬・育薬関連研究で成果を上げ、最高水準の国際学術誌に掲載されたほか、食品、栄養、環境分野において、発明で特許権を取得し、研究成果の発表等が表彰されるなど高い評価を受けた。また、研究領域横断で地域の課題解決に向けた調査研究が行われ、企業と協働した産業振興等への貢献が期待できる。

(No. 42、43、45)

イ 外部資金の獲得

科学研究費補助金、受託研究費、共同研究費等の外部資金の獲得金額及び件数が数値目標を大幅に上回った。科学研究補助金の獲得競争が激化している中、若手研究者の採択率が全国平均40%を大きく上回る68%となるなど、全学的な取組の成果が見られる。(No. 51、74)

ウ 効率的な予算執行

メリハリのついた戦略的な予算配分を行うとともに、業務の見直しや効率化により管理的経費は前年度比で97.1%であった。時間外勤務削減に向け、事務改善による業務負担の軽減等に取り組んだ結果、時間外勤務時間数は、前年比で約2割減少した。(No. 76)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・大学院の博士／博士後期課程における大幅な定員未充足については、教学面だけでなく経営面からも今後の対応策を検討し、早急に大学院全体の将来構想を議論されたい。(No. 27)
- ・急速な少子化に伴う大学進学者数の減少により、募集停止や経営破たん追い込まれる高等教育機関の増加が予測されるなど、高等教育を取り巻く環境は大変厳しい状況にある。人口減少が進行する中、将来にわたって学生と地域社会に支持され続けるため、全学横断で今後の在り方を検討する必要がある。

[参考]項目別評価の結果

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
2 法人の経営に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
3 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
4 その他業務運営に関する重要目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある

第3 項目別評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

大学の教育研究等の質の向上に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

大学の教育研究等の質の向上に関する目標について、年度計画記載の66項目中3項目が「計画を上回って実施している」、62項目が「計画を順調に実施している」と認められた。

これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・薬学部では、令和4年度に文部科学省の補助金を獲得し制作したVR^{※1}コンテンツを薬局窓口での医療面談や在宅でのフィジカルアセスメント等における実践的な知識習得に活用するなど、教育手法の高度化に取り組んだ。また、令和5年度に新たに採択された文部科学省の補助事業で、川根本町におけるへき地医療の課題解決への取組を開始し、地域の医療ニーズに合わせて卒後のキャリアパスにつなげていく薬学教育プログラムの構築・実践に着手した。(No. 2)
- ・国家資格試験対策の強化や個々の学生に応じた学習支援に努めた結果、保健師、助産師、歯科衛生士、介護福祉士で合格率100%となり、数値目標を達成した。特に、歯科衛生士国家試験では、8年連続で新卒者の合格率が100%を達成し、介護福祉士国家試験では、5年連続で合格率100%を達成した。(No. 16、17)
- ・令和4年度に実施した入試において出題ミスが発生したため、静岡県立大学学力検査問題検討委員会点検部会で点検作業を実施するなど、再発防止と信頼回復に向け、全学を挙げて取り組んだ。(No. 29)

※1 VR(virtual reality) : コンピューターによって創り出された仮想的な空間などを現実であるかのように疑似体験できる仕組み。

- ・「Tongali (Tokai Network for Global Leading Innovation) ※2プラットフォーム」が JST (国立研究開発法人科学技術振興機構) 大学発新産業創出基金事業「スタートアップ・エコシステム共創プログラム拠点都市プラットフォーム共創支援」に採択され、学内の起業支援体制の構築に向けた5年間のプロジェクトを開始した。令和5年度は、大学12社目となる大学発ベンチャーが誕生し、研究成果のビジネス参画、社会実装を支援するため、学内にインキュベーションセンター「Kendai-base」を開設し意欲ある研究員や学生をハード、ソフトの両面から支援した。また、生命科学と人文社会科学の異分野にわたる学際的な研究成果を掲載した電子媒体の学術誌「生涯健康科学ジャーナル」の創刊を行うなど、研究成果の情報発信を強化した。(No. 50)
- ・新型コロナウイルス感染症に対する制限緩和を見据え、海外大学との交流協定締結に向けて調整を継続した結果、新たに2校と大学間交流協定を締結し、今後2件の協定を締結する予定であり、中期目標期間終了時に目標達成の見込みとなった。さらに、部局間交流協定も3校と締結した。(No. 64)

※2 Tongali (Tokai Network for Global Leading Innovation) : 東海地区の大学コンソーシアムによる起業家育成プロジェクト。学部生・大学院生・教職員を対象に、次世代の起業家を育成・支援する多面的なプログラムを提供している。

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・薬剤師国家試験、管理栄養士国家試験及び看護師国家試験において、数値目標を達成できなかった。今後、合格率向上に向けた学習支援の一層の充実に努められたい。(No. 14、15、16)
- ・留学生受入人数の数値目標達成に向け、対策を講じられたい。また、COIL^{※3}を活用したモビリティ・プログラム（交換留学・日本人学生派遣）を展開していることから、今後は、遠隔教育による新たな留学プログラムに取り組むことを期待する。(No. 62)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を上回 って実施	A 計画を順調 に実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の大幅 な見直し等 が必要
1 教育	41	0	1	39	1	0
2 研究	12	0	2	10	0	0
3 地域貢献	8	0	0	8	0	0
4 グローバル化	5	0	0	5	0	0
合 計	66	0	3 (4.5%)	62 (93.9%)	1 (1.5%)	0

※3 COIL (Collaborative Online International Learning) : オンライン教育手法の進化を国際的な大学間交流に応用した、国際的・双方向的な新しい教育実践の方法。情報通信技術 (ICT) ツールを活用し、海外の学生と様々な分野のプロジェクトをバーチャルに連携しながら実施することで、国内に居ながら海外大学の学生と協働して学習できる。

II 法人の経営に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

法人の経営に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

法人の経営に関する目標について、年度計画記載の11項目中1項目が「計画を上回って実施している」、10項目が「計画を順調に実施している」と認められた。

これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・法人の自律的な運営を担う人材を確保するため、即戦力となる職務経験者区分の事務職員（総合職）を計画的に採用した。また、人材育成方針に基づき、研修を実施するとともに、職員の自己啓発に対する助成を行い、専門性の高い職務能力の向上を図った。(No. 70、71)
- ・講義室等貸付料を適正な対価で徴収するため、光熱費高騰により実態と乖離している空調利用料の値上げを行うとともに、貸出業務に係る事務費用を徴収する事務手数料を新たに追加し、施設利用料の改定を行った。(No. 74)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を上回 って実施	A 計画を順調 に実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の大幅 な見直し等 が必要
1 業務運営の 改善	7	0	0	7	0	0
2 財務内容の 改善	3	0	1	2	0	0
3 施設・設備の 整備、活用	1	0	0	1	0	0
合 計	11	0	1 (9.1%)	10 (90.9%)	0	0

Ⅲ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標について、年度計画記載の2項目全てが「計画を順調に実施している」と認められる。

これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・静岡県公立大学法人個人情報管理規則を制定し、室単位で個人情報管理者、個人情報保護担当者を定め、個人情報の管理体制を整備した。(No. 79)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・外部認証評価機関による認証評価の受審の結果、「大学基準及び短期大学基準に適合している」旨の認定を受けた。改善を要するとして提言を受けた「改善課題」及び「是正勧告」について、速やかに対応を行い、教育研究の質の向上を図られたい。(No. 78)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を上回 って実施	A 計画を順調 に実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の大幅 な見直し等 が必要
1 評価の充実	1	0	0	1	0	0
2 情報公開・ 広報の充実	1	0	0	1	0	0
合 計	2	0	0	2 (100%)	0	0

IV その他業務運営に関する重要目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

その他業務運営に関する重要目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

その他業務運営に関する重要目標について、年度計画記載の5項目中4項目が「計画を順調に実施している」と認められる。

これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・改正育児・介護休業法の施行を踏まえ、テーマを男性の育児休業取得促進に特化して事務局管理職を対象とする次世代育成支援・女性活躍推進研修を実施するなど、ワーク・ライフ・バランスの取組を更に推進した。

(No. 83)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・相談員等によるハラスメント相談を実施したほか、ハラスメント防止研修を実施し受講率100%を達成するなど、ハラスメントの防止・救済に取り組んでいるが、懲戒処分に至るパワー・ハラスメント事案が発生しており、全学を挙げてハラスメントの防止・救済を徹底されたい。(No. 82)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を上回 って実施	A 計画を順調 に実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の大幅 な見直し等 が必要
1 安全管理	2	0	0	2	0	0
2 社会的責任	3	0	0	2	1	0
合 計	5	0	0	4 (80.0%)	1 (20.0%)	0

業務実績評価集計表（令和5年度）

区分		評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を上回 って実施	A 計画を順調 に実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の大幅 な見直し等 が必要
教育 研究等	教育	41	0	1	39	1	0
	研究	12	0	2	10	0	0
	地域貢献	8	0	0	8	0	0
	グローバル化	5	0	0	5	0	0
	合 計	66	0	3 (4.5%)	62 (93.9%)	1 (6.1%)	0
法人経営		11	0	1	10	0	0
自己点検		2	0	0	2	0	0
その他		5	0	0	4	1	0
総合計		84	0	4 (4.8%)	78 (92.8%)	2 (2.4%)	0

業務実績評価集計表（令和4年度）

区分		評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を上回 って実施	A 計画を順調 に実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の大幅 な見直し等 が必要
教育 研究等	教育	41	0	1	37	3	0
	研究	12	0	2	10	0	0
	地域貢献	8	0	0	8	0	0
	グローバル化	5	0	0	4	1	0
	合 計	66	0	3 (4.5%)	59 (89.4%)	4 (6.1%)	0
法人経営		11	0	0	10	1	0
自己点検		2	0	0	2	0	0
その他		5	0	0	5	0	0
総合計		84	0	3 (3.6%)	76 (90.5%)	5 (5.9%)	0